



垂水区医師会 会長 深水 昭先生



今回、この神戸掖済会 HOSPITAL NEWS を発信するにあたり地域医療と地域連携の向上を目指すため、地域の患者様のかかりつけ医でもある開業医の先生方にお話を伺

う機会を設けてさせていただきました。記念すべき第1回目の先生は垂水区医師会会長の深水 昭先生です。

Q：当院の地域連携室の現状について

A：掖済会病院が地域連携を積極的にすすめようと考えておられるのがよく分かります。最近、ほとんどの病院が地域連携室を設けていますが、どこの病院も大体同じような役割をされているのではないのでしょうか。そのなかで、掖済会病院の地域連携室として、何か特徴を出したいと考えるのも必要ですが、病院と診療所をより一層丁寧に細やかに地道に繋いでいかれる事が、本来の地域連携室の役割ではないのでしょうか。

Q：当院との病診連携はスムーズにとれていますか？

A：患者様を紹介させていただき、検査・治療が終わるとほとんどの患者様が手紙を持って帰ってこられるか、病院よりのファックス連絡が入っています。患者様を紹介して、検査・治療が終わるまではどうなったか常に気になっています。これからも随時患者様の情報を教えていただきたいと思います。

Q：今後の地域医療について

A：患者様が医療機関にかかろうとしたときに、主に御近所での評判と医療機関が何を専門としているかだと思います。その時、病院と診療所をいかにうまく繋いでいく医療が出来るかが、その病院の地域連携室の役割だと思いますし、今後、私たちが目指す地域医療ではないのでしょうか。

(地域医療連携室 友尻あや)

患者様のお声

8年前にギランバレー症候群を発症しました。糖尿病もあり、現在はインスリン療法と運動療法をしています。60歳を過ぎ、尊厳死について、自宅での死についてなど色々考えるようになりました。検体登録もしています。これまで大阪の病院にかかっていたのですが、家が近いこの病院に来るようになりました。地域に溶け込んだ治療を発信し、患者が満足できる医療を行って欲しいです。地域住民に向けて予防医学などの勉強会を開いて欲しいですね。この病院の看護師さんたちはよく勉強していると思います。

60才 男性



初めの頃、予約外で受診すると待ち時間が長かったのですが、徐々にスムーズに早くできるようになってきました。いつも介護タクシーを使いますが、その人からも「早いね」と言われます。急に他の科の診察を受けたい時でも、受付に言えばすぐに対応してくれるので助かります。 80代 女性 (家族)

【院長より】

この新聞は神戸掖済会病院を近隣の皆様方に身近に感じていただけるように院内の様子などをお知らせするために作成しました。また、病院宛てにいただいたご質問やお言葉についても掲載し、お応えしようとするものです。数年前にも同様の意図で刊行したのもありますが、いつの間にか長期休刊になっておりました。今度のニュースは着実に発刊する予定ですので末長くよろしくお祈りします。神戸掖済会病院の「掖済」という見慣れない言葉の意味は腋(わき)に手を添えて救い助けるという意味です。この言葉に恥じないように、地域に根ざした病院として救急医療や病診病連携に努めてまいります。

また、患者様の立場に立った心優しい医療を提供してゆきます。

今後とも神戸掖済会病院をよろしくお祈りします。(島津 敬)

外来化学療法室



患者様1人1人の状態を観察し、様子を尋ねながら対応する看護師

治療成績の向上を目指して

がん治療に最適な空間を！

今、日本では3人に1人が、がんになると言われています。しかし、医療は日々進歩していますので治療や延命が可能になってきました。検査を行ない、がんの早期発見・早期治療が最も大切なことです。そして、その治療方法は増えていますが、がんを患いながらも日常生活を普通に過ごし、がんと共に何年

も生きていく患者様がたくさんおられます。神戸掖済会病院では、平成21年4月に「外来化学療法室」を新しくオープンしました。また、平成22年2月からはクロニ病とリウマチの患者様にも安全でより快適な環境で治療を受けていただけるようになりました。外来化学療法室では、内科・外科・泌尿

各種がんに対する治療薬剤

胃がん	シスプラチン・イリノテカン・パクリタキセル・ドセタキセルなど
大腸がん	FOLFOX (フルオロウラシル+レボホリナート+オキサリプラチン)・FOLFIRI (フルオロウラシル+レボホリナート+イリノテカン) ベパシズマブ・セツキシマブの併用など
胆嚢・膵臓がん	ゲムシタビン
肝がん	フルオロウラシル肝動注・シスプラチン
乳がん	FEC (フルオロウラシル+エピドキシシクロホスファミド)・パクリタキセル・ドセタキセル・TC (ドセタキセル+シクロホスファミド)・トラスツマブ・リュープロレリン・ゴセレリンなど
子宮・卵巣がん	TC (パクリタキセル+カルボプラチン)・DC (ドセタキセル+カルボプラチン)・ドキシロビシン塩酸塩など
前立腺がん	リュープロレリン・ゴセレリンなど

器科・婦人科・悪性腫瘍や自己免疫疾患の患者様が点滴や注射をされています。治療には個々に合わせてサイクルが8週間毎・3ヶ月毎など、治療により来られる日も様々です。

Q: 「外来化学療法室」は、がん治療に最適な空間を！
A: 化学療法は様々な副作用が出るため、特に治療中はきめ細かな観察が必要です。これまで化学療法を行うためには入院が必要でしたが、化学療法室が整備されたことで、患者様が通常生活を送りながら外来通院で治療を受けることが可能になりました。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: がん治療は、抗がん剤の種類・投与量・投与順序・期間など科学的根拠に基づいた治療計画に基づいて行なわれます。現在、当院でがん化学療法を行っている患者様は、胃がん、大腸がん、肝胆膵がん、乳がん、子宮がん、卵巣がん、前立腺がんなどの方です。治療の内容は疾患や病態によって様々です。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: 「術後化学療法」は、手術後にがんの転移再発率を減少させ延命をはかる目的で「転移したがん」に対する化学療法は、転移巣の縮小をはかる目的です。がんの状態も患者様の状態も考慮し、抗がん剤の種類・投与量・投与順序・期間など科学的根拠に基づいた治療計画に基づいて行なわれます。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: 「術前化学療法」は、手術前にがんを縮小させ、手術で切除する範囲の縮小と再発率を減少させる目的です。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: がん化学療法には、病気やその状態によって3つの目的があります。「術前化学療法」は、手術前にがんを縮小させ、手術で切除する範囲の縮小と再発率を減少させる目的です。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: リクライニングチェアが6台とベッドが2台あります。それぞれにテレビが付いており治療中はテレビを見ながら過ごす患者様もいらっしゃいます。又、治療時間の長い患者様はお茶を飲んだり、お菓子やご飯を食べたり、昼寝や読書をして過ごされています。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: 6南病棟の一角にあります。室内はとも明るく、窓の外にはゴルフ場が見えます。春になるとウグイスの鳴き声が聞こえ、心が癒されます。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: がん治療に最適な空間を！化学療法室は、通院で化学療法を行う患者様にとって「より快適に、より安全に安心して治療を受けられる空間」として設けられた部屋です。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: がん治療に最適な空間を！化学療法室は、通院で化学療法を行う患者様にとって「より快適に、より安全に安心して治療を受けられる空間」として設けられた部屋です。

Q: がん治療に最適な空間を！
A: がん治療に最適な空間を！化学療法室は、通院で化学療法を行う患者様にとって「より快適に、より安全に安心して治療を受けられる空間」として設けられた部屋です。



抗がん剤調製業務中の薬剤師

抗がん剤調製業務について

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 抗がん剤調製業務について。化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 抗がん剤調製業務について。化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 抗がん剤調製業務について。化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 抗がん剤調製業務について。化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 抗がん剤調製業務について。化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

Q: 抗がん剤調製業務について
A: 抗がん剤調製業務について。化学療法室では、患者様に安全な抗がん剤治療を受けていただくために、さまざまな業務を行っています。そのひとつに、「抗がん剤の無菌混合調製」があります。今回は、抗がん剤の無菌混合調製についてお話をしたいと思います。

